

## SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	看護ベストプラクティス研究開発・ラボ					
ラボ代表者	氏名	宮脇 美保子	所属	看護医療学部		
ラボ設置期間	2012年3月1日		～	2024年3月31日	12	年間

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
宮脇美保子	看護医療学部 教授	ラボラトリ・リーダー 倫理的看護実践研究開発
武田 祐子	看護医療学部 教授	遺伝看護実践研究開発
野末 聖香	看護医療学部 教授	精神看護実践研究開発
永田 智子	看護医療学部 教授	倫理的看護実践研究開発
深堀 浩樹	看護医療学部 教授	高齢者看護実践研究開発高齢者
矢ヶ崎 香	看護医療学部 教授	がん看護実践質保証研究開発
田口 敦子	看護医療学部 教授	地域看護実践件杞憂加発
小池 智子	看護医療学部 准教授	ベストプラクティス先導ナース開発研究
福井 里佳	看護医療学部 准教授	倫理的看護実践研究開発
福田 紀子	看護医療学部 准教授	精神看護実践研究開発
大坂 和可子	看護医療学部 准教授	がん看護実践質保証研究開発
宮川 祥子	看護医療学部 准教授	看護実践研究開発
朴 順禮	看護医療学部 講師	看護実践研究開発
田村紀子	看護医療学部 講師	がん看護実践質保証研究開発
新幡 智子 他13名	看護医療学部 講師	がん看護実践質保証研究開発

## 年次活動実績報告

研究活動報告 (設置申請書, 継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

■目的 本ラボトリアは、最善の看護実践(ベストプラクティス)に不可欠である、①看護実践の質保証(Quality)を推進する実践研究開発、②個別化・最適化した看護実践を現場に浸透・波及(Utility)できる看護リーダーの養成、③当事者の価値を尊重する倫理的看護実践の醸成(Explore)、をめざすものである。この目的のために、<看護実践の質保証研究開発><ベストプラクティス先導ナースのキャリア開発><倫理的看護実践のためのシステム構築>の3つの研究グループに加え、若手研究者が横断的に活動する<わかば会>がある。

プロジェクトA <看護実践の質保証研究開発>

1. 「安全、安心ケアネット構築」のプロジェクト

・「経口抗がん薬の服薬自己管理支援プログラムの有効性：ランダム化比較試験と質的研究によるMixed Method」は解析を終え、論文を投稿した。

・がん化学療法に伴う末梢神経障害のある患者を対象にした転倒予防e-ケア開発研究は、新型コロナウイルス感染症による研究協力施設の影響を考慮し、2020年度はデータ収集を中断した。その間中間解析を進めると共にコロナ禍でのさらなるデータ収集方法を再計画している。今後研究計画書を修正申請予定である。

2. フレイルな高齢がん患者の食生活に関するプロジェクト

がん治療中のフレイルな高齢者を対象にした食生活に関する質的研究は新型コロナウイルス感染症の影響でデータ収集を約半年間中断した。その後データ収集を再開、分析を終え、論文を投稿した。現在査読中である。

3. がん患者向けのディシジョンエイド開発と活用のための医療者教育プログラムの開発

2020年度は、がん患者向けディシジョンエイド開発に必要な情報を整理した講義資料試作版を作成した。

4. 産科医療施設における共有意思決定教育に関する研究

主に産科医療施設の医療者および妊娠中の女性を対象とした共有意思決定支援の実装につながる教育プログラムの作成、研究計画の立案を行った。

5. 生体センサを活用した心不全患者のための「こころと眠りの支援プログラム」開発と評価

心不全患者の精神的健康と睡眠の質を高めるためにwebを介して遠隔的に支援する「こころと眠りの支援プログラム」を開発し、その効果を検証することに取り組んでいる。

1) 心不全患者の睡眠状態、精神状態、セルフケアに関する実態調査

2) 生体センサを用いた睡眠データの収集・集約に関する実施可能性の検討

6. 老年看護において科学的根拠に基づく実践(Evidence Based Practice)を促進

高齢者の終末期ケア、痛みに関する医療系学生等に関する研究を実施した。

7. 人びとのWell-beingを目指すマインドフルネスとコンパッションによるプロジェクト

レジリエンスと思いやりを構築する医療従事者へのマインドフルネスMindfulness for Health professionals building Resilience and Compassion: MaHALOプログラムの効果研究—無作為化試験—を実施した。

プロジェクトB <ベストプラクティス先導ナースのキャリア開発>

1. ベストプラクティス推進プログラムの運営

組織が置かれている外部環境および自組織の内部環境の分析を踏まえ、ビジョンと戦略を明らかにするために、課題の現状分析と要因分析を行い、施設内外の優れた実践例(ベストプラクティス)等も参考に複数の改善策を比較検討し、実施計画を立案し、適切な目標・評価指標を設定し、プロセス評価・アウトカム評価した。

2. ケース・メソッド教育を用いたマネジメント能力育成プログラム

これまで作成したケース教材を用い、授業・研修で用い、授業・研修の効果を評価した。

3. 医療勤務環境改善に資するNudge開発

医療安全分野のナッジ開発、新型コロナ感染対策におけるナッジ開発を行なった。

4. 高齢者のワクチン忌避の行動変容を促進する新たなツール開発プロジェクト

プロジェクトC <倫理的看護実践のためのシステム構築>

1. 倫理的看護実践の推進を目指したリーダー養成のための研修プログラム・教材の開発

研究紀要力施設におけるCOVID-19の影響で、2021年1月から3月まで5回の「看護倫理研修」を実施し、倫理におけるサーバントリーダーの育成に取り組んだ

2. 糖尿病足病変による中足骨切断患者の歩行分析と生活の質に影響する要因の検討

文献レビューもとに、研究計画書の再構築のための準備を行ったが、COVID-19の影響で、計画を実施に移すことができなかった。

3. 米国における「患者移動介助技術」に関する基礎看護学テキストの分析

わが国の看護基礎教育に必要な患者移動介助技術について検討するための基礎資料を得ることができた。

【わかばの会】

わかばの会は、看護分野の若手研究者が研究能力・教育能力の向上を目指すために発足した。様々な専門分野の若手研究者が協働し、キャリアアップを図りながら創造的に研究に取り組み、今後の看護学の発展や大学教育の充実へ貢献を目指している。

1. 教育評価(ルーブリック評価)について考える

ルーブリック評価法の学習を通して、レポートや実習の評価の妥当性について学び、評価を授業の改善や学習支援に活かす方法を検討

2. オンライン授業の効果的な活用と課題について考える

文部科学省のオンライン授業に関する情報、Blended learning、反転授業について文献や実体験をふまえて講義を行い、情報共有を行った。その後、グループに分かれて今年度の各自のオンライン授業の体験を振り返り、効果的にオンライン授業を実施する上で具体的に工夫・配慮できることについてディスカッションを行い、検討した。

3.研究と教育の両立について考える

若手研究者として教育と研究活動を両立していく上での悩みや課題を共有し、対策を検討することを目的として勉強会を実施した。"

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

【論文】

- 1) Komatsu H, Yagasaki K, Yamaguchi T, et.al. (2020): Effects of a nurse-led medication self-management programme in women with oral treatments for metastatic breast cancer // Eur J Oncol Nurs. 47:101780.
- 2) Komatsu H, Yagasaki K, Sato Y, et.al. (2020): Evaluation of the Japanese Version of the Cancer Survivors' Unmet Needs Scale. // Asia Pac J Oncol Nurs. 14;7(2):167-173.
- 3) Shishido E, Osaka W, Henna A, Yuko et.al. (2020) :Effect of a decision aid on the choice of pregnant women whether to have epidural anesthesia or not during labor. PLoS One, 15(11): e0242351.doi: 10.1371/journal.pone.0242351.
- 4) Nakayama K, Osaka W, Matsubara N, et.al. (2020) : Shared decision making, physicians' explanations, and treatment satisfaction: BMC Medical Informatics Decision Making. 20(1): 334.
- 5) Higuchi, A., Yoshii, A., Fukahori, H., et.al. (2020) : Nurses' perceptions of medical procedures and nursing practices for older patients with non-cancer long-term illness and do-not-attempt-resuscitation orders Nurs Open, 7(4), 1179-1186.
- 6) Hirooka, K., Nakanishi, M., Fukahori, H., et.al. (2020) : Impact of dementia on quality of death among cancer patients: Geriatr Gerontol Int, 20(4), 354-359.
- 7) Kodama, Y., Fukahori, H., Tse, M., & Yamamoto-Mitani, N. (2020). Pain Prevalence, Pain Management, and the Need for Pain Education in Healthcare Undergraduates. Pain Manag Nurs.
- 8) Nasu, K., Konno, R., & Fukahori, H. (2020) : End-of-life nursing care practice in long-term care settings for older adults: A qualitative systematic review. Int J Nurs Pract, 26(2),
- 9) Nasu, K., Sato, K., & Fukahori, H. (2020) :Rebuilding and guiding a care community -A grounded theory of end-of-life nursing care practice in long-term care settings. J Adv Nurs, 76(4), 1009-1018.
- 10) Okumura-Hiroshige, A., Fukahori, H., Yoshioka, S., et.al. (2020) :Effect of an end-of-life gerontological nursing education programme on the attitudes and knowledge of clinical nurses: A non-randomised controlled trial. Int J Older People Nurs, 15(3)
- 11) Takahashi, Z., Yamakawa, M., Fukahori, H., et.al. (2021) :Defining a good death for people with dementia: A scoping review. Jpn J Nurs Sci.,
- 12) 宮脇美保子(2020):看護基礎教育における看護と哲学, 日本医学哲学・倫理学会, 88-92
- 13) 古田真弥子、宮脇美保子(2020):患者・家族の個別ニーズに应答する看護師のケアを支えるもの, 日本医学哲学・倫理学会, 31-40
- 14) 森陽子, 深堀浩樹, (2020) :訪問看護事業所による就業時の教育的支援への臨床経験を持つ新人訪問看護師の認識. 日本看護評価学会誌, 10(1), 31-39.
- 15) 小池智子 (2020) : 先端テクノロジー, Expert Nurse 36(4)P91-99.
- 16) 渡邊敏基, 山本亜矢 (2020) : Safe Patient Handling and Movementに関する研究動向 計量書誌学的分析. KEIO SFC JOURNAL 20 (1) : 284-301
- 17) Park S, Sato Y, Takita Y, et.al. (2020) : Mindfulness-based Cognitive Therapy for Psychological Distress, Fear of Cancer Recurrence, Fatigue, Spiritual Wellbeing and Quality of Life in Patients with Breast Cancer. J Pain Symptom Manage. Feb 24. pii: S0885-3924(20)30103-2.
- 18) Tamura N, Park S, Sato Y, et.al. (2020) : Study protocol for evaluating the efficacy of Mindfulness for health professionals building resilience and compassion program (MaHALO program): The Journal of Psychosocial Oncology Research and Practice 2:2(e22).
- 19) Ninomiya A, Sado M, Park S, et.al. (2020) : Effectiveness of mindfulness-based cognitive therapy in patients with anxiety disorders in secondary-care settings: Psychiatry Clin Neurosci. 74(2):132-139.
- 20) Sado M, Kosugi T, Park S, et.al. (2020) : Effectiveness and cost effectiveness of Mindfulness-Based Cognitive Therapy for improving subjective well-being among healthy individuals. JMIR Res Protoc. 8; 9(5)
- 21) 朴順禮、藤澤大介(2021) : 患者の死と向き合う医療者への心のケア. 保険の科学. 63(3) p.179-183
- 22) 小林良子・宮脇美保子 (2020) : わが国における看護師の腰痛予防対策に関する現状と課題, KEIO SFC JOURNAL 20 (1) : 285-3

【学会発表等】

- 1) 大坂和可子 (2020:第12回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会シンポジウム2「多様性を理解し支える医療コミュニケーション」シンポジスト, 9月26日～27日
- 2) 大坂和可子 (2020:第40回日本看護科学学会学術集会シンポジウムII「医療における当事者・家族意思決定支援の実装」シンポジスト, 12月12日～13日,
- 3) 秋元直子, 宮脇美保子 (2020:中堅看護師の看護の再考につながった臨地実習指導の経験に関する研究, 第40回日本看護科学学会, (12.12)
- 4) 石川志麻(2020): Cultural competency and health beliefs of Filipino female caregivers in Okinawa prefecture, Japan, Proceedings of the Transcultural Nursing Society Conference
- 5) 小池智子, 水野基樹, 伊藤清子他 (2020): 医療勤務環境改善を促進する「ナッジ」設計を学ぼう, 第24回日本看護管理学会学術集会・インフォメーションエクステンジ (8.29)
- 6) 藤澤大介, 朴順禮, 佐藤寧子他 (2020): マインドフルネスとコンパッションに基づく医療従事者のストレス・燃え尽き低減プログラムの効果:ランダム化比較試験. 緩和・支持・心のケア合同学術大会, (8月) 最優秀演題 受賞
- 7) 藤澤大介, 朴順禮 (2020): マインドフルネスとコンパッションに基づく医療従事者のストレス・燃え尽き低減プログラムの効果:シンポジウム「緩和ケアを専門とする医療者の人材育成とそのための支援～緩和ケアの未来をつくる礎に～」緩和・支持・心のケア合同学術大会, (8月)
- 8) 朴順禮, 藤澤大介, 佐藤寧子他 (2020): コンパッションとは何か? マインドフルネスプログラムを体験した医療従事者が思うコンパッション. 緩和・支持・心のケア合同学術大会, (8月)
- 9) 田中智里, 二宮朗, 朴順禮他 (2020): COVID-19流行による急性ストレスに対するマインドフルネスの継続効果. 日本マインドフルネス学会第7回大会. (12月)
- 10) 朴順禮 (2020): 医療従事者のマインドフルネスとコンパッションを涵養する —MaHALOプログラムについて—シンポジウム: ケアする人のケアを考える, 第20回日本認知療法・認知行動療法学会年次大会 (11月)

【その他】

- 1) 宮脇美保子 (2020): 東邦大学主催 シンポジウム「生命倫理」シンポジスト(7.4)
- 2) 深堀浩樹 (2020): 【看護研究における報告ガイドライン2】ヘルスサービス研究における混合研究法による研究の質. 看護研究, 53(2), 118-120.
- 3) 宮川祥子 (2020): 【看護研究における報告ガイドライン2】mERA 携帯電話を用いた健康介入報告のためのガイドライン: モバイルヘルス (mHealth) の根拠の報告と評価 (mERA) チェックリスト. 看護研究, 53(2), 142-143.
- 4) 山本亜矢: ナーシング・スキル 動画講義シリーズ講師 「最新のエビデンスに基づいた褥瘡管理方法」エルゼビア・ジャパン

【講演研修】

- 1) 宮脇美保子: 「倫理に基づく看護実践」東京都看護協会 主催研修会講師, 2020.9.18
- 2) 宮脇美保子: 「ケアの受け手と周囲の人への意思決定支援」沖縄県看護協会研修会 (2020.10.1)
- 3) 宮脇美保子: 「新人看護師のための看護倫理」横須賀共済病院研修会 (2021.1.23)
- 4) 宮脇美保子: 「看護教育における看護倫理」沖縄県看護教育協議会 研修会 (2020.12.24)
- 5) 小池智子: 政策決定プロセスにおける看護管理者の役割-Evidence Based Policy Making-, 公益社団法人 日本看護協会 神戸研修センター. (2020.10.29.)
- 6) 小池智子: 2040年に向けた医療政策動向と看護マネジメント の課題, 公益社団法人医療・病院管理研究協会 看護管理研修 (2020.10.31)
- 7) 小池智子: 現場の活動をよりよくする仕掛けナッジの活用, 東京都病院幹部マネジメント研修. (2020.11.27)
- 8) 小池智子: ナッジ×保健医療: より良い選択をそっと後押し, 藤沢市民講座 第3回 (2020.12.19.)
- 9) 小池智子: よりよい意思決定に向けたナッジの活用～看護現場をよくする仕掛け～, 大阪府看護協会研修. (2020.10.7)
- 10) 小池智子: 2040年に向けた看護マネジメントの課題-マネジメント選択肢としての「ナッジ」東京都立広尾病院看護師長・副看護師長マネジメント研修. (2020.6.8.)”